



【第7章】

地域団体との取り組み

第7章 地域団体との取り組み

7-1 まちづくりに向けた検討

7-1-1 おりお未来21協議会

折尾地区総合整備事業による折尾地区の再生・活性化に向けたまちづくりを進めるため、自治会や折尾商連など地元団体が集まり、「おりお未来21協議会」が発足しました。市へ提言した折尾地区の将来の姿などを描いた「折尾まちづくりビジョン」を踏まえ、大正5年当時の駅舎の外観を可能な限り再現した新駅舎や、新駅舎内に旧駅舎の円形ベンチを活用して再現するなど、駅舎の保全・活用などについても、協議会をはじめとする地元の要望を聞きながら、より良い折尾のまちづくりの実現に向け、地域と協働した取り組みを進めてきました。



おりお未来21協議会 会議中

これまでのまちづくりの取り組みが評価され、令和4年度には北九州市より、令和5年度には国土交通省より表彰されました。

令和4年度	第57回 北九州市表彰受賞（まちづくり功労部門）
令和5年度	まちづくりアワード受賞（功労部門）

折尾まちづくりビジョン

～ 「人が主役、やさしさいっぱいのもち」を目標して ～



平成 20 年 6 月

おりお未来21協議会

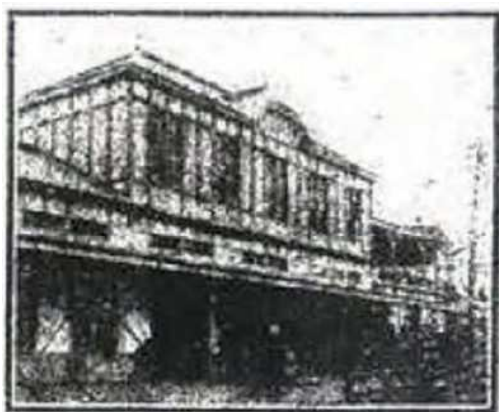
折尾まちづくりビジョン

新折尾駅舎のデザイン案と基本的な考え方

- ・ 構造や部材等の調査を行い、歴史資料とともに記録を整理・保存する。
- ・ 大正5年当時の駅舎の外観については、可能な限り再現する。
- ・ 駅舎のシンボリックな部材については、保存・復元を基本とする。

■ 駅舎外観

新駅舎は、当時の外観を可能な限り再現することを方針にデザインを検討しました。デザインの検討には、旧駅舎解体時の調査記録や写真等の史料を使用しています。



外 観



新駅舎の外観

■ 駅舎内観

< 待合室 >

駅舎に入っすぐの待合室は、旧駅舎の待合室をイメージしたものとなっています。

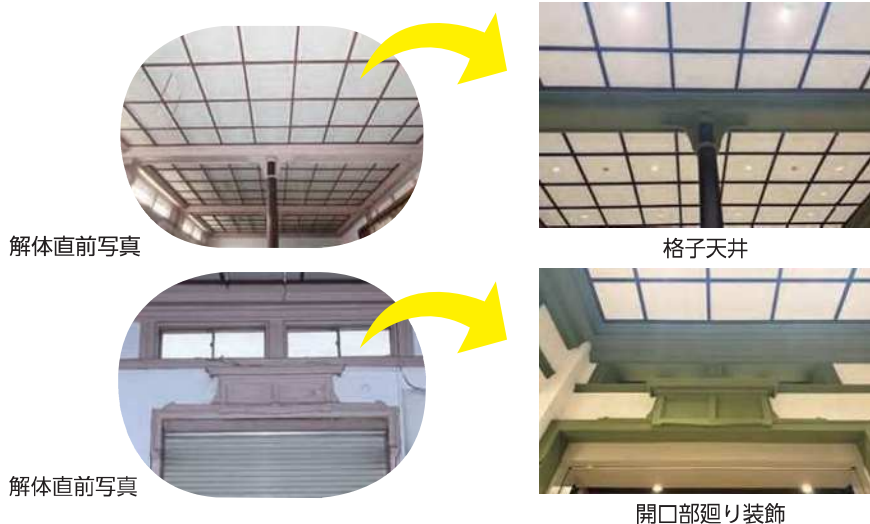


旧駅舎の待合室
(昭和50年 藤崎 吉弘氏 提供)



新駅舎の待合室

待合室には、利用者に馴染みの深い解体直前の装飾を取り入れています。主なものとして、格子天井や開口部廻りの装飾があります。解体時点で待合室に残っていた装飾は劣化が著しかったため、再現に努めました。



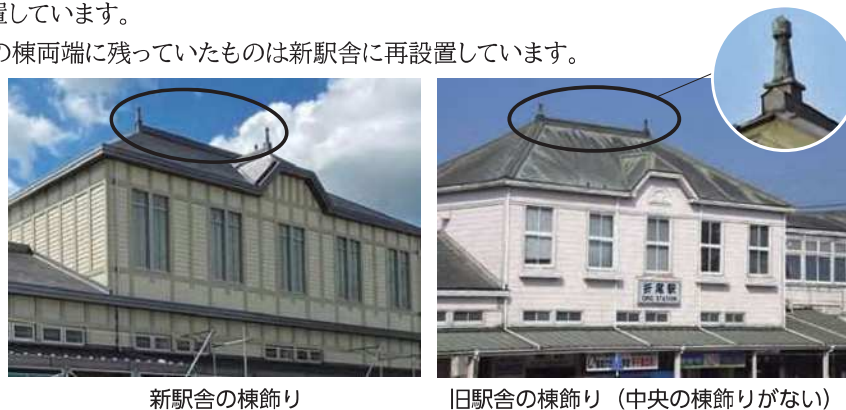
■ シンボリックな部材

新駅舎には、解体時に保管していた旧駅舎を象徴するシンボリックな部材を補修した上、使用しています。外観には棟飾り、内観には円形ベンチの一部・化粧柱を使用しています。

< 棟飾り >

旧駅舎には、棟飾りが3つありました。平成24年の解体時には中央の棟飾りが残っていなかったため、再現し設置しています。

旧駅舎の棟両端に残っていたものは新駅舎に再設置しています。



< 円形ベンチ、化粧柱 >

旧駅舎には円形ベンチが2つありました。既存のベンチは再利用できる部材を可能な限り活用しており、平成24年の解体時に残っていなかった右側のベンチは再現し設置しました。



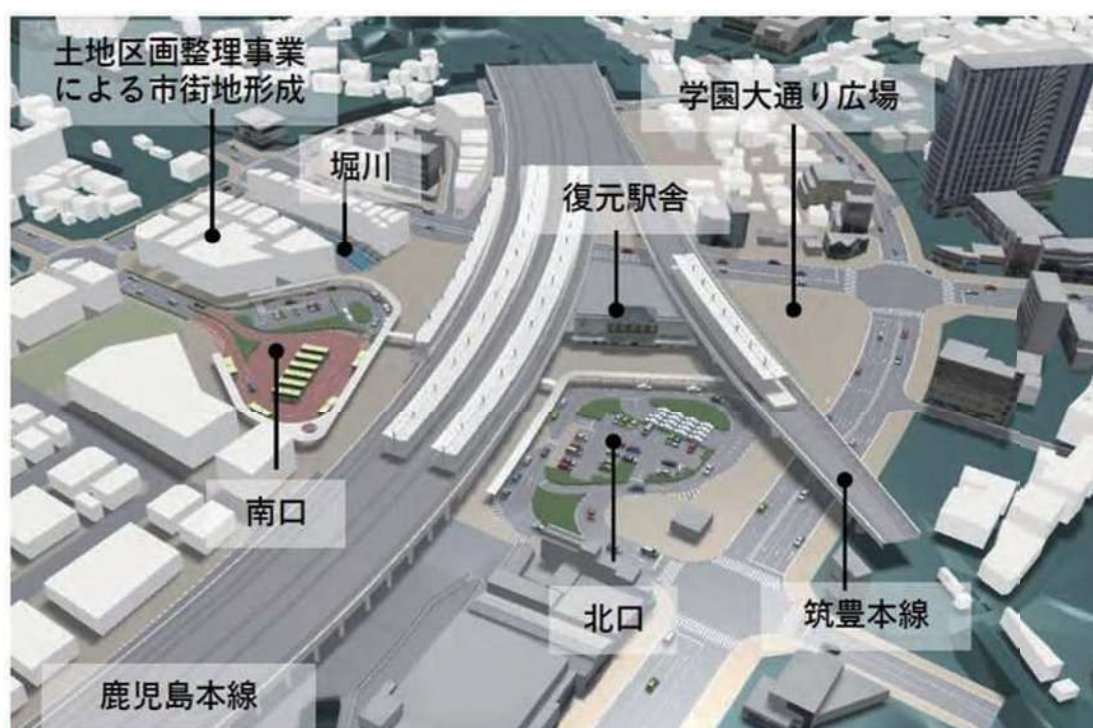
7-1-2 新折尾駅周辺整備検討会

折尾地区総合整備事業は、長期にわたる事業であるため、施策の一貫性を確保することを目的として、アドバイザー機能として検討会を開催してきました。

折尾地区総合整備事業において、新たに整備する折尾駅舎や南北駅前広場、また駅周辺の街路等のデザインなど、誰もが安全・快適に利用できる施設となるように検討を行ってきました。

■ 整備方針

①使いやすい駅前広場	・ 雨に濡れない乗り換えを可能とする ・ バリアフリーの駅前広場とする ・ 歩行者動線をわかりやすく示し、周辺の町への回遊性を高める
②折尾らしい駅前広場	・ 折尾のまちの「顔」となる景観を形成する ・ 折尾の歴史を感じさせる場とする
③交流の場となる駅前広場	・ 周辺のまちづくり、賑わいづくりを牽引する空間とする ・ 地域のイベントの場として活用する ・ 住民や学生の憩いや時間待ち、待ち合わせ等の場を提供する
④コスト低減	・ 建設費や管理費を抑制する



駅前広場全景